

ポリオワクチン接種

知っておくべきこと

1 ポリオとは何でしょうか？

ポリオはウイルスによって引き起こされる疾病です。口から子供（大人）の体内に侵入します。深刻な病気には至らないこともありますが、時には身体麻痺（腕あるいは足が動かせない）を引き起こします。通常呼吸をつかさどる筋肉が麻痺することによって、死亡することもあります。

ポリオは米国で非常に発生率の高い疾病でした。ワクチンが開発される前には、何千もの人が身体麻痺したり、死亡したりしました。

2 なぜワクチン接種を受けるのでしょうか？

不活性ポリオワクチン接種(IPV)はポリオを予防できます。

歴史: 1916年の米国でのポリオ大流行は6,000人が死亡し、27,000人以上に身体麻痺が生じました。1950年代初期には毎年20,000件以上のポリオが発生しました。1955年にポリオワクチン投与が始まりました。1960年までに発生件数が約3,000件まで低下し、1979年までにはたったのおよそ10件程になりました。米国と諸外国でのポリオワクチン投与の成功は世界中でのポリオ撲滅運動に拍車をかけました。

今日: 野生のポリオウイルスは米国では20年以上報告されていません。しかし、世界の特定の地域では依然として高い発生率で起こっています。ワクチンによって予防しない限り、他の国からこの疾病が持ち込まれることによって発病する可能性があります。世界からこの病気を抹殺することに成功すれば、いつかポリオワクチン接種は必要なくなります。その時まで、私達の子供達にワクチン接種を受けさせなければならないのです。

経口ポリオワクチン: 勧めていません

二種類のポリオワクチンがあります。IPVは今日の米国で推進されているワクチンの皮膚注射で、経口ポリオワクチン(OPV)は生ワクチンを口から飲み込みます。

米国では最近までほとんどの子供達にOPVが勧められてきました。OPVはポリオ多発国の撲滅を助け、依然として世界の多くの地域で使用されています。

両方のワクチンともポリオに対する免疫を持ちますが、OPVは他の人々へ次々と感染が広がることを防ぎます。しかし、非常に少数の人(約240万人に一人)は、実際にポリオを発病してしまうことがあります。米国ではポリオに罹る危険性が低いので、主治医が処方する特別な場合を除いて、実際に病気に罹る可能性がある経口ワクチンは適当ではないと専門家は考えています。ポリオワクチン接種(IPV)はポリオを発病しません。あなたあるいは子供がOPVを受ける場合には、OPVワクチン情報付録を請求してください。

3 ポリオワクチンを受けるべき人とその時期はいつでしょうか？

IPVは、年齢によりますが、足あるいは腕に注射されます。ポリオワクチンは他のワクチンと一緒に受けることもできます。

子供

ほとんどの人は子供の時期にポリオワクチン接種を受けるべきです。子供は以下の年齢の時に、4回のIPV接種を受けます:

- ✓ 2ヶ月投与
- ✓ 4ヶ月投与
- ✓ 6-18ヶ月投与
- ✓ 4-6歳で追加抗原投与量

大人

ほとんどの大人は子供の時に既に受けているので、ポリオワクチンを受ける必要はありません。しかし、以下の三つのグループに該当する大人は、ポリオに罹る危険が高いので、ポリオワクチン接種を受けることを考えるべきです。

- (1) ポリオの発生率の高い地域へ旅行する人。
- (2) ポリオウイルスを扱うラボラトリーの職員、そして
- (3) ポリオ患者を治療する医療職員。

以上の三つのグループに該当する大人で、**ポリオ抗体ワクチン接種を受けたことがない**方はIPVの接種を3回受けるべきです:

- ✓ 初回はいつでも、
- ✓ 二回目は初回から1から2ヶ月後、
- ✓ 三回目は二回目から6から12ヶ月後。

三つのグループに属する大人で過去に**1あるいは2回**のポリオワクチン接種を受けたことのある大人は、残りの**1あるいは2回**の接種を受けてください。前の投与との期間は問題ありません。

過去に3回以上のポリオワクチン接種の投与を受けたことがある大人は、IPVの追加抗原投与量を受けるべきです。

詳細につきましては、あなたの医療機関にお尋ねください。

4

IPVを受けるべきでないあるいは延期するべき人

以下の方はIPVを受けるべきではありません:

- 抗生物質のネオミシン、スレプトマイシン、あるいはポリマイキシンBに対して生命の危険があるアレルギー反応を起こしたことがある方は、ポリオ接種を受けるべきではありません。
- ポリオ接種に対して強度のアレルギー反応を起こしたことがある方は、次の接種を受けるべきではありません。

延期するべき人:

- 接種を受ける時に中度あるいは重度の病気の方は、ポリオワクチン接種を受けずに、病気から回復するまで接種を延期してください。風邪などの軽度の病気に罹っている方は、接種を受けられます。

あなたの医療従事者にお尋ねください。

5

IPVの危険性とは何ですか？

IPVを受けた人の中には、接種を受けた患部が赤く腫れることがあります。今日使用されているワクチン接種は深刻な問題は何も起こさないことが分かっており、大多数の人には問題が全くありません。

しかし、他の薬と同様にワクチンはアレルギー反応のような深刻な問題が生じることがあります。ポリオ接種による深刻な副反応や死亡の危険性は非常に少ないといえます。

6

深刻な副反応がある場合にはどうしたらよいのでしょうか？

何に気を付けるべきでしょうか？

深刻なアレルギー反応、高熱、あるいは普段と違う行動などいつもと異なる状態。

深刻なアレルギー反応が生じる場合には、接種後数分から数時間以内に起こります。深刻なアレルギー反応の症状は呼吸困難、衰弱、しわがれ声やぜいぜい息をする、動き、湿疹、めまい、顔色が悪い、喉の腫れなどの症状を含みます。

どうするべきでしょうか？

- 大至急医師を呼ぶか、医師に連れて行ってください。

- いつ、何時に何が起こったのか、そしてワクチン接種を受けた日付を医師に教えてください。
- 主治医、看護婦、あるいはワクチン副反応事例報告機構(VAERS)の用紙に記入して健康局に報告するか、VAERSのトールフリー番号1-800-822-7967にご自身で連絡してください。

副反応の報告はワクチンによって起こりえる問題についての専門家の研究を助けます。

7

連邦ワクチン障害補償プログラムについて

貴方やお子さんがワクチンに対して深刻な副反応が起こる可能性は稀少ですが、障害がある方の看護を金銭的に補助する連邦プログラムがあります。

連邦ワクチン障害補償プログラムの詳細につきましては、1-800-338-2382にご連絡いただくか、このプログラムのホームページ <http://www.hrsa.gov/osp/vicp/> をご覧ください。

8

詳しい情報を得るにはどうしたらいいのでしょうか？

- 医師あるいは看護婦にお尋ねください。ワクチン接種概要パンフレットや他の情報源の提案ができます。
- 地元や州の健康局の予防接種プログラムに連絡してください。
- 疾病管理予防センター(CDC)に連絡してください:
 - Call 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)
 - 連邦予防接種プログラムのホームページ <http://www.cdc.gov/nip> をご覧ください。



U.S. DEPARTMENT OF HEALTH & HUMAN SERVICES
Centers for Disease Control and Prevention
National Immunization Program

Vaccine Information Statement
Polio IMM 548 ML - Japanese- 1/1/2000
Translated by Transcend Translations, Davis, CA
<http://www.transcend.net>